

会 議 録

会 議 名	第3回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	令和8年1月22日（木） 午前10時～午後0時	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 4階会議室	
出 席 委 員	林 昌彦、石原 政司、谷笹 摩弥、浪花 正典、成 将希、 西山 大作、井上 裕司、田中 由理、中野 志郎、 大垣 陽子、中本 弘美、小林 由美	
欠 席 委 員	岡本 一也、西川 彩児、山本 めぐみ	
事 務 局 及 び 説 明 員	（産業部）池本次長、茅野農業振興課長、寺元森林環境課長、 藤原商工観光課長 （建設部）谷口次長、小坂住宅土地政策課長 （市長公室）水口公室長、中尾次長、久内地域創生課長、 上月副課長、岸根係長、中瀬主査	
傍 聴 人 数	5人	
会 議 の 区 分	公開	（非公開の理由） なし
協 議 事 項 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回委員会のフィードバックについて【資料①-1～7】 ・ 基本計画（基本目標1）について【資料②、③、参考資料】 ・ その他 	
会 議 経 過 及 び 会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 確 認 者	委員長 林 昌彦 （令和8年1月30日確認）	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	■開会 ■委員長あいさつ
事務局	■第2回委員会のフィードバックについて【資料①-1~7】 (説明)
委員長	各委員におかれましては、修正内容が発言趣旨と齟齬がないか確認いただきたい。今の説明に関して、何かご質問等あるか。
全委員	(特になし)
委員長	後ほどでも修正意見あればお伝えいただきたい。
事務局	■基本計画(基本目標1)について【資料②、③、参考資料】 (説明)
基本方針1 働く場所の充実について	
委員	会議資料の説明をいただいたが、資料が色々あって見るところが多く、情報がばらばらで把握がしにくい。計画への意見は後ほどとさせていただきたい。
委員長	最終的に資料②が修正されたものが計画になるので、本日もご意見をいただきたい計画本編は資料②がメインになる。資料③などは事務局が本日の協議の参考として示しているものである。
委員	計画に記載の政策について、内容はわかるが、具体的にどのような取組を行うのかが見えてこない。起業への支援や、市に戻ってくるメリットがどういったものなのかを、今後計画に盛り込んでいくのか。
委員	現状と課題に「就業率は上がっているが、女性の半数以上が非正規雇用」と記載がある。弊社においても女性が約8割で、子どもが小さい間はパートで良いが、大きくなったらお金もかかるので、社会保険に入りたいという方も多い。しかし、社会保険は会社としても負担が大きく、働き続けて欲しいが、費用負担の関係から希望が叶えられない。 農業分野においても、女性の働ける場・活躍できる場は多くあると思うが、働き続けられるような受入態勢の整備を進めていくことが必要。
委員	宍粟市は森林セラピー基地を有する兵庫県で唯一の自治体である。森林

	<p>は、宍粟市としてキーとなるもので、木を伐るだけの産業という面だけでなく、レクリエーション、セラピーといった面など、いろんな角度から生活に貢献できると思う。</p> <p>森林大学校では、森林に関する様々な分野を学べるが、就職先が限られているのが現状。森林大学校の卒業生が起業して、「森業（もりぎょう）」として新しい産業をつくってくれるととても良いと思う。原案では林業事業体が増えることがKGIとされており、望ましいことではあるが、それだけではなくて、「森業」のような新しい産業として、働く場がもっと生まれてくると良いと思う。</p> <p>29 ページ起業支援のことが書いてあるが、若い人が新しい産業に取り組んでいくには勇気もお金も必要であり、森林を活かした新しい仕事が、新たな雇用を生んで、賑わいを作っていくように、しっかり起業支援していくことが必要だと思う。</p> <p>高校生のほとんどは宍粟市に住んでいるが、森林について知らない子が多いことから、地域の子どもたちに森林・林業について伝え、木育を通じて郷土愛を醸成することで、将来的には市に定着して新しい産業を起したり、就職したりしてくれると嬉しい。</p>
委員	<p>KGIで設定されている観光入込客数の数値と参考資料で示されている数値が異なっているので、確認をお願いしたい。</p> <p>資料2について、文章もわかりやすいものに変えてもらった印象。表記のゆれを無くし、全体として文章の統一感を図っていくことも必要だと思う。また、「推進します」を「進めます」といったように、わかりやすい言葉・表現で記載した方が良い。</p> <p>28 ページの「女性の非正規雇用」に関する課題に対して、29 ページの「女性の職場復帰」に関する施策が記載されているが、対応する施策としては範囲が狭いのではないかと。ジェンダーに関する差別や採用時の偏見があったり、ライフイベントごとの負担が女性に偏っていることへの支援がなかったり、正社員として長時間労働・転勤、子育てとの両立が難しいといった部分もあると思う。施策1-3は、「女性がいきいきと働けるよう」のような、もう少し幅広い言い方にできれば、個別計画での施策の展開も図りやすいと感じた。</p>
委員	<p>産業に関して、雇用や就職の課題は、働きたい人と仕事のミスマッチが一番大きいと考えている。計画書に高校生の話は出てくるが、大学生や専門学生への取組が見えてこないと感じた。そういった方の意見を聴く機会があった中で、学生たちの就職像や考え方、求める職種・業種が変化してきているように感じたが、行政や事業者がこの変化を捉えられておらず、違和感が生じているのではと思う。</p> <p>近年、新規開業の際、近隣では姫路市などでコワーキングスペースでの創業をめざして活動している人も多くなっている。宍粟市においてもコワーキングスペースの整備はされていると思うが、行政として希望や活用状況などを把握できているかは気に掛かる場所である。</p>

委員	<p>企業誘致に関して、日本の産業構造も変わって来ている中で、高速道路を活かして流通や倉庫業に関連する企業を呼び込む流れもある。誘致を考えていく際は、ターゲットを決めていかないと難しいと思うし、従来からの目標とずれてきている部分もあるのではないかと。企業誘致に関して現時点でどのような展開を考えているのか、市としての想定があれば教えてほしい。</p> <p>KG Iに過年度実績が記載されているのはわかりやすいと思うが、ここに5年前の実績が書かれているということは、この時点でこのKG Iが決められていたということか。計画としては10年間のものであると思うが、10年前の実績は記載しなくて良いのか。また、KG Iとしてはこの5つで決まりなのか、10年前に決めた基本目標があるのでそれも載せなくていいのか、といったところが気になる。</p> <p>計画書としては、まずは職員がこの内容を理解して、市民が相談に来た際にすぐ教えてもらえるようにできたら良いと思うし、さらに計画をみながら、「みんなで何ができるかな」と考えたり、相談したりするためには、写真も重要になってくる。今後の話になると思うが、写真は募集されたり、プロに撮ってもらったりするのか。文字と違って写真は印象付けるものであり、共通認識を持つのにも大事な要素であると思う。</p> <p>どちらかと言えば、宍粟市は消える方向にあると言われている。計画には、子どもたちに伝えていこう、人材を育てていこうという内容が書かれているが、今、現役で働いている世代が「宍粟市は良いまちだ」「ここに住んだらいい」と胸を張り、誇りを持って次の世代に伝えていけるように、現役世代へアプローチができるとう良い。</p>
委員	<p>計画書として書かれている内容はそのとおりだと思うが、掲げられている政策に対して、「いまこんなことを考えている」など具体例の紹介があると、現状から目標の達成に向かう流れが見えやすくなると思う。文章を足すのか、写真を挿入するのか、どちらが良いかはわからないが、そういった繋がり部分の部分が書き込めると良いと思う。</p> <p>29ページの施策1「生き生きと働ける場の創出」の項目に、若者や女性に関する支援は記載されているが、障がい者雇用に関する内容がない。後ほどの福祉分野の項目で出てくるのかもしれないが、総合的な方針をうたう計画として、包括的に書いてほしいと思う。</p>
委員	<p>総合計画や総合戦略に関連して課題を整理していく中で、すべての項目における課題としては、人口が激減していることだと思う。私の出身である一宮町の人口は、昭和30年の15,800人から、令和7年では6,800人と半分以下になっており、改めて危機だと感じた。</p> <p>農業の関係について、農地を守っていこう、荒廃を防ごうということで、数値目標の農地利用面積も、何とかここまでに抑えようと目標設定している。しかし市民は、今の農地の現状がわからない、わかりにくいのではないかと。かつて圃場整備を行った農地でさえ荒廃が進んでおり、在来</p>

	<p>田の何%が荒れた、圃場整備田の何%が耕作放棄地になっているなど、具体のことを示せると市民にとってもわかりやすいと思う。</p> <p>31 ページの観光に関して、広域連携の視点も取り入れたら良いと思う。例として、現在、西兵庫信用金庫の力を借りて、たつの市との連携をできることから進めている。たつの市はヒガシマル、揖保乃糸といったコンテンツがあるが、お酒がない。宍粟市にはお酒がある。このように、互いに良い所を出し合い広域で観光を進めていくことを記載できると良い。</p> <p>アウトドアに関して、宍粟市の弱点は、観光バスや高速バスで訪れた際、地域の中、自然の中へアクセスする第二次交通が乏しいことだと考える。神姫バスにもアプローチをかけていくことが重要だと思う。また、元地域おこし協力隊の方が、旅行の管理資格を取られて、宍粟市限定のツアーを計画するなどの活動を始められている。そういった、第二次交通を含めた新たな活動が、観光を点から線にしていくということの具体的な取組の始まりかなと感じている。</p> <p>地域づくり団体の全国交流大会として、宍粟市は令和元年度に地域づくりの活動家 20 名を受け入れた。その際に、はが軽トラ市に招待したが、「主催者側がなぜこんなに楽しそうなのか」と言われた。これは重要なヒントであると思っていて、まずは自分たちが楽しみ、外から来られた方に笑顔を見せることで、人口が減っていく中でも交流人口を増やしたり、人を集めたりできるし、観光や地域の魅力発信にも繋がるモデルになると思う。</p> <p>女性活躍の社会に向けて前進しているとは感じているが、地元に戻ると、婦人会の組織が解散されているなど、まだまだ難しい状況がある。まずは波賀町の事例のように、魅力ある塊を作っていくところからスタートできると良いのかなと思う。</p>
委員	<p>雪の降り方など、宍粟市はもちろん、一宮町の南北でさえ環境が大きく異なる。就職するにしても、企業誘致を検討するにしても、こういった環境の差がある中で難しい面もある。個人的に、山崎町は暮らしやすい地域に入ると思うが、北部は企業が少なく、私の近所の状況では、素麺事業者とそこを継ぐ人が大半の地域になってしまっている。現実的に通勤できる範囲としては、北部から1時間程度と考えると山崎町が限界だと思う中で、地域間のギャップが本当に大きく、地域によっては消滅してしまうのではと不安に感じている。</p>
委員	<p>シティプロモーションの項目で、シビックプライドという言葉がある。調べると誇りや愛着といった意味だそうだが、こういった難しい言葉で記載するのではなく、市民に伝わりやすい言葉で記載する方が良いと思う。</p>
委員	<p>D Xが進められており、自身に関連するところでも子どもの健診がペーパーレスでの案内になった。以前の様な葉書での案内が無くなったことで、案内に気付かなかった方が、別日に受診されているのを見かけた。単にお知らせをアプリに切り替えるだけでなく、デジタル化が浸透するまでの</p>

	<p>プロセスが大切で、フォローも必要かなと思っている。</p>
<p>欠席委員 (事務局代読)</p>	<p>起業支援・企業誘致に関連して、シェアオフィスやコワーキングスペースを関連機関との連携において整備し、Uターンによる起業を含めて企業誘致と移住の推進を図ることが現実的な方策ではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>各委員より、計画書に具体的な内容が記述してある方がありやすいといった意見をいただいた。ご意見としては、その通りであると認識しているが、総合計画はすべての分野を網羅する計画であり、具体の部分すべてを記載することは難しい。詳細は個別計画や実施計画で深掘りするという役割分担をしていければと考えており、それらの基となる中長期の方向性の整理が総合計画の役割ということでご理解いただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>説明があったのは事務局の方針ということだが、あくまで原案はたたき台なので、計画の記載項目や目標指標の項目についても、今後変更は可能である。現状と施策の結びつきに関するご意見については、今後の委員会の説明資料作成の段階で対応を検討していければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>基本方針 2 活気ある産業の振興 基本方針 3 選ばれるまちの創出について (一括議題)</p>
<p>委員</p>	<p>31 ページの政策 5-1 に、「市内を周遊するツーリズム」とあり、森林のように市内で完結するコンテンツもあるが、発酵などについては市内だけでなく、広域連携も進められているという現状があるため、近隣市町と連携する視点を加えた記述としてはどうか。第2次総合計画でも、観光には市内完結と広域連携の両面からの記述があった。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどたつの市の話が出たが、定住自立圏で見ると、上郡町にはワインがあり、佐用町にも、西播磨ビジネスプランコンテストで最優秀賞を獲得され、醸造に関する起業に取り組んでいる方がいる。例えば、こういった発酵文化の繋がりを持ちつつ、発酵文化において一歩リードしている宍粟市が連携すれば良いものができるのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>また、全体として、居住地や年齢にかかわらず、誰もが宍粟市と聞いて「笑顔」が思い浮かぶ地域になれば良いと考えるので、計画のどこかに「笑顔」のキーワードを盛り込めないか。</p>
<p>委員</p>	<p>林業事業体数がKGIに設定されているが、県下でも認定事業体をみると4割は宍粟市で、県内有数の林業地であるとともに、山崎木材市場は近畿でも有数の原木市場である。材料としてはあるが、加工部分が弱点で、市外で加工され岡山ひのきや吉野杉になってしまう。有数の木材の供給地であるが、残念ながら宍粟材というブランドは全国区ではないという現状である。かつては市内に多数の製材所があり地域内循環ができていたが、人口減少下では期待ができないため、広域で物事を考える必要がある。</p>

	<p>岡山の真庭市が理想ではあるが、一足飛びにそこまでは辿り着けないので、まずは事業体に来てもらい、加工部分が強くなれば良いと思う。実際の消費先は都会となるが、宍粟市で採れた素晴らしい木材を宍粟材として流通させることで産業力アップに繋がるので、ブランディング、特に都会の消費者へのPRに関する記述が不足しているのではないかと思います。</p> <p>北部は仕事がないという話があったが、例えばドイツは、自動車産業よりも森林・木材産業の方が雇用者数は多い。宍粟市の恵みである、再生可能な天然資源を活用した産業を興し、若者たちが回帰するための仕事を創ることは、宍粟市の強みと言える部分だと思うので、ブランディングと木材加工に注目した事業者誘致ができれば良いと感じている。</p> <p>農業の担い手不足は肌で感じている。経費の高騰や価格競争がある中では儲からないのが現状であり、別に仕事をしながら休みの日に農業をしたい人も少ないと思う。荒廃農地の問題を耳にしても、農業に関わっていない方にとっては、自分事として捉えられず、危機感も抱きにくいのではと思う中で、まずは興味を持ってもらうことが大事ではないか。耕作放棄地が増えており、交付金だけではなかなか改善には繋がらない。</p> <p>どうすれば興味を持ってもらえるかを考えたときに、トラクターや草刈機は実際に経験がないとできないため、若者や女性向けの講習会などの場があると少しは変わってくると思うし、若者のしーたん放送の加入率を向上させつつ、農業も含めた色々な情報発信もできればと思う。</p> <p>新潟県で「集え。ガチ棚」という中山間地域の棚田を保全するための取組がある。草刈や講習会の参加でTシャツやポイントの贈呈があり、そのポイントでお米がもらえる仕組みがある。宍粟市も参考にできるのではないかと考える。また、一宮町では、ハリマ農協がラジコン草刈機をレンタルされていると耳にするので、こういう技術を取り入れて農作業が楽になれば良いなと考えている。</p> <p>基本方針3の政策6に「市公式のインスタグラムなどによる情報発信」とある。実際の投稿をみると、例えば、先ほど話に出てきた軽トラ市についての投稿は開催の5日前となっており、少しタイミングが遅いのではないかと考える。せっかく良い情報を載せられているので、市内外の参加者の予定を立てやすくし参加者を増やすため、イベントの月間スケジュールを作成するなどの工夫が必要ではないか。</p>
委員	<p>基本方針3のめざすまちの姿はすごく良い。ただ現状は、進学で宍粟市から離れた若者がそのまま就職、結婚して帰ってこないこと。</p> <p>最近、バスの便数が増えており、山崎一姫路間や山崎一三宮間など、朝</p>

事務局	<p>早くから夜までであることに気付いたのだが、これは市から神姫バスや JR に要望を出しているのか。</p> <p>市内交通は、公共交通会議などで行政からも働きかけているが、神戸行き高速バスなどは、事業者が利用者数を考慮して調整されているのではないかと。</p>
委員	<p>大阪や神戸に就職されても宍粟市から通えるという観点から、そういう働きかけも必要なのかと思う。</p>
委員	<p>市外の方やシングルマザーの方から、宍粟市に住んでみたいが、物件がなかなかないという話を聞く。アパートでは騒音を気にするので、田舎の一軒家に住みたいが、購入は難しいため賃貸にできないかなどの相談を受ける。他にも、都会で暮らしていて「心が疲れた人」や「DV・モラハラで離婚したい人」を受け入れる場についても相談があった。そういったところが、移住のきっかけになるかもしれないと考えている。心が疲れた人、生きる意味を見出せない人への支援として、農業や移住と紐づけて取り組むのも良いかもしれない。</p>
委員	<p>基本方針 2 の政策 5 「地域資源の活用による観光の振興」に関して、自治会のきれいな川を SNS に上げたところ、域外から多くの人々が来るようになり、地元の子供たちが遊ぶ場所が減ってしまった。宍粟市の資源を PR したい気持ちはあるが、場所が特定できないようにするなど、情報発信の際は配慮が必要だと思った。</p> <p>かといって、子どもの遊ぶ場所を自治会だけで維持することは難しい。移住者が増え、賑わうことは良いことだが、地元の人々の気持ちも守りながら、上手に情報発信できると良いと思う。</p>
委員	<p>31 ページの地域資源について、推定で毎月約 500～600 人が千年水の水汲場にきているので、アンケートを実施したところ、8～9 割の来訪者はまほろばの湯を利用したことがあるとのこと。神社や公園などの地域資源を上手く組み合わせて、巡ってもらえるマップを地域ごとに作っても良いかと考える。最近、オートキャンプ場ができたこともあり、まほろばの湯を利用する若い方や子どもが増えていると感じる。そのあたりを市でも調査して、実態を把握してもらえればと思う。</p>
委員	<p>基本方針 3 に、「若者、特に女性の回帰率の低さが課題」とあり、対応する政策 7 では「女性の回帰率を向上させるため…」とあるが、女性の回帰率を上げるというだけでは、取組の幅が少し狭いのかなと思う。</p>
委員	<p>観光入込客数やふるさと納税に関する KGI などが強気の目標値になっている印象だが、これらを支える産業は、大元が農林水産業で、そこから派生する商業や飲食業といった業種になるはず。KGI に「市内従業者数</p>

委員	<p>(工業)」とあり、確かに製造業も重要ではあるが、方向性とやや不一致ではないか。</p> <p>個人的に、まちの賑わいは飲食店の数で測ることができると考えており、恐らく市内でもかなり減っているんじゃないかと思う中で、商業についての目標設定が重要ではないか。また、6次産業化といった商業・サービス業の分野の記述があるにも関わらず、対応するKGIがないことも気になる。</p> <p>農家が野菜などを作っても、売り先に困っている状況がある。市の直売所として「きて一な穴粟」や「好きや de 西播磨」があるが、これらの現在の経営状況を知りたい。生産者からすると、手数料が上がっても売れるなら出していきたいし、廃棄するくらいなら値下げしても売りたいという思いがある。</p> <p>観光では、最上山のもみじは認知度が高く、来訪者も多いが、始まりはもみじを一本ずつ植えたところからと聞いている。もみじ以外もそうだが、そういった成り立ちや、地元の人たちが頑張って作り上げたストーリーを、イベントなどで伝えられれば、見る人に与える印象も違ってくるのではと思う。</p>
事務局	<p>「きて一な穴粟」について、農産物を通じて穴粟市の魅力を伝えるという目的から観光担当で運営していたが、令和5年度に運営を民間に委託しているため、詳細を把握できていない。</p> <p>「好きや de 西播磨」については、行政で管理しているため、集荷等については相談できると思う。売上に関しては、神戸までの輸送費などが嵩んでいるため、厳しい状況であるが、改善傾向にはある。</p>
委員	<p>私自身も空き家バンクを利用していた経験があるが、基本的に空き家の賃貸はない中で、所有者に交渉して賃貸にしてもらった。安いといえども数百万円なので購入のハードルは高く、やはり合わなかったら他の地域に移住したいという心理もある。空き家を資源として考えて、先ほどワーキングスペースの話もあったが、森林大学のシェアハウスのような色々な活用の仕方があると思う。</p> <p>社会の流れとして、モノ消費からコト消費となる中で、林業や農業の体験を新しい切り口の観光資源にできる気がする。</p> <p>インバウンドに関する記述がないが、日本ならではの体験ができるという面から、インバウンド獲得に繋がるかもしれない。</p>
事務局	<p>意見への回答として、KGIは過去から固定の指標ばかりではなく、原案で示している指標には、目標値を更新したり、項目を新たに設定したりしている。また、現段階で決まったものでもなく、本委員会での今後のご意見もふまえて、検討を重ねて設定していく。</p> <p>写真については、イメージを共有する視点でも重要だというご意見を受け止め、これから事務局で選定のうえ、委員会で確認いただきたい。</p>

事務局	<p>■その他 (報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回委員会について 【開催日】3月13日(金)10:00~ 【議 題】基本計画中、基本施策4~6 ・第5回委員会開催に係る日程調整について
副委員長	<p>■閉会</p> <p>たくさん雪が降っているため、気を付けて帰っていただきたい。 本日からは基本計画の協議ということで、計画は大まかな内容ではあるが、皆さんからの具体的なお話を聴けて大変参考になった。様々な意見が重要だと考えるので、今後も意見を受けて計画を良いものにしていきたい。</p>